

本郷台中だより

30 学校だより第 12 号
平成 31 年 1 月 8 日
文京区立本郷台中学校
校長 齊藤 正富

新たな一年、着実な成長のために必要なこと

生徒の皆さん、新しい年、平成 31 年（2019 年）を迎えました。本年もどうぞよろしくお願
いいたします。

私たちの本郷台中学校は、昨年、開校 20 周年記念事業の取組等を通じて、保護者の皆様、地域
の皆様との連携を深め、「チーム本郷台」の結束を一層強固にすることができました。

そして、新しい年は、学校として次に示す二つのことに引き続いて取り組みます。それは、

「本郷台中学校のよいところを着実に伸ばす」

「本郷台中学校の課題は着実に改善する」

です。そこで今回の「本郷台中だより」では、まず、本郷台中生全員が着実に成長するために必要な
ことを生徒の皆さんに伝えたいと思います。

さて、私が昨年、ある朝礼で次のような話をしたことをおぼえていますか。

それは、自分の今の「力」を数字の「1」と考えて、その力を毎日着実に発揮すると、一年間で
どのくらいの積み重ね（成長）ができるだろうか。という話です。その時、皆さんには、「1」の力
が発揮できずに、「0.99」の力しか出さなかった時と、逆に「1」の力以上に、「1.01」の力を発揮で
きた時、一年間にどのくらい成長できるかを考えてもらいました。

一年間を 365 日として計算した数字ではありますが、以下のとおりです。

【1】「1」 × 365 = 365 ← 成長できる値

∴ 【1】 > 【2】 : 3.65 ポイント、成長が遅れる状態

【2】「0.99」 × 365 = 361.35 ← 「1」の力を発揮できないため、成長が遅れてしまう

∴ 【2】 < 【3】 : 7 ポイントも差が発生してしまう

【3】「1.01」 × 365 = 368.65 ← 「1」の力を発揮しただけよりも、さらに成長できる

ところで、「1」の力が「0.99」しか発揮できないとき、その理由としては、「健康状態が良くない」
ことや、やる気がしない「怠け」、もういいやという「安易な妥協」などがあげられます。

逆に「1」しかないはずの力を「1.01」以上発揮できた時は、「元気モリモリ」であったり、「目標」
「意欲」といった自分を向上させたい気持ちが高まったりした時でしょう。

皆さんの周りには、自分からその気になれば、あちらこちらに自分の「1」よりも大きな力を発揮
できるチャンスで溢れています。学校では、勉強や部活動などのさまざまな活動を通して、皆さんを
成長させる取組を示しながら、皆さんへの支援を今年も継続していきます。

そこで、本郷台中生一人一人が、この一年で着実に成長するために心がけてほしいことを、3つ
あげてみました。それがすべてではありませんが、皆さんがこの一年も着実に成長するために、心身
ともに健康で、自分自身と仲間を思いやりながら実践してほしいと思います。

1 ネガティブな言葉を発しない。

気持ちがネガティブになることは、誰でもあります。そうなるもおかしくない出来事が、降りかかることがあるかもしれません。そのような時に、ネガティブになるなどは言いません。

でも、昨年来校してくれた星奈津美さんは、自身がバゼドウ病を患ったときに、病床でどのように考えたか。そして考えたことを実践した結果、周囲の人が自分にどのように接してくれるようになったと話してくれましたか・・・思い出してください。

自らがネガティブな言葉を発してしまうと、周囲もネガティブにしてしまいます。

2 「今」を必ず「未来」につなげる。

想いが叶ったり、目標を達成できたり、あるいは、その逆の結果になったり・・・日々の積み重ねの結果、いろいろなことが起こります。でも、目標は達成してしまうと、次からそのことができず当たり前になります。なぜなら、達成できたのは偶然ではなく、自分自身にはその力があったのだからです。逆に、達成できなかったのならば、それには必ず原因や理由があります。物事の積み重ねは、結果が出た後も「振り返り」をしっかりと行い、さらに何を積み重ねるかが大切だと考えてください。

例えば、同じ目標をもちゴールを目指して、仲間と努力を積み重ねた結果、自分の方が早く目標を達成できたとします。しかし、そのことに満足してしまい、その後何もしなかったとします。一方で、遅れて目標を達成した仲間は、その後も地道に努力を続けて、最終的なゴールで追い抜かれてしまったということはよくあることです。

つまり、ひとつ上手くいったからといってそれ以上何もしなかったり、失敗したからといって諦めてしまったりしては、その先の未来が、良くなることはないということです。

皆さんには、「今」起きていることを「今」だけのこととして終わらせるのではなく、日頃から「未来」をしっかりと見据えて、「今」の積み重ねを大切にしてほしいと思います。

3 同じ目標をもち、目標を達成した時に喜び合える仲間をつくる。

「夢」は叶えるもの、「目標」は達成させるもの。星奈津美さんも話していました。さらに、彼女自身は、出場した大会で表彰台を逃した悔しさから、水泳に取り組む姿勢が変わり、結果を残していくことで、オリンピックが「夢」から「目標」に変わったとも話していました。

また、陸上女子400mのパラリンピアンで、リオデジャネイロパラリンピックに出場し、銅メダルを獲得した重本沙絵（旧姓 辻）さんは、当時大学生でした。大会を終えた重本さんが、大学の授業のために教室に入った時、同じ授業を受けるために教室にいた他の学生が、彼女をスタンディングオベーションで迎え、拍手が鳴りやまずに授業を始められなかったという大学の先生の話聞いたことがあります。

私たちは、目標を高くするほど、多くの努力を積み重ねなければなりません。そのことを一人でやっていると、時に孤独を感じたり、気持ちが折れてしまいそうになります。しかし、支えてくれている仲間や自分がやったことを一緒に喜んでくれる仲間の存在に気付いた時、目標を達成しようとする意志やもっとがんばろうとする気持ちは、きっと以前よりも強くなるはずで

【保護者の皆様、地域の皆様】 改めまして、本年もどうぞよろしくお願いいたします。いつも「本郷台中だより」をご覧いただきありがとうございます。毎回、皆様に学校や生徒の取組などを内容として発信してまいりました。今回は、初めて本校の生徒向けのメッセージを皆様にもご覧いただきたく、発信させていただきました。